

「動けば、変わる」

「そんなことしても、ムダ、ムダ」「やたって変わらないよ」…街頭演説の場で、街行く人から何度そう声をかけられたでしょう？「一票で変わるはずないでしょ？だから選挙なんて行かないよ」…確かに、そう思いたくなる状況ばかりが目につくのも確か。しかし、「でも」と私は思うのです。例えば、さいたま市のように 100 万人の人がいて、もし、100 万人全員が「ほんとうは〇〇してほしい」と思っていたとします。でも、その 100 万人全員が言ってもムダだと思って声をあげなかったら、これは「0 票」です。ところが、諦めないで思ったことはとりあえず言ってみようと思っただけで口に出してみました…すると、なんとその票は「100 万票」！絶対に変わります。

政治の流れが大きく変わる時というのは、実は、個々人、一人一人が「実は〇〇と思っていた」というのをストレートに表した時ではないでしょうか？

あの、日本新党ブームの時。自民党単独政権が「変わるはずないよ」とずっと諦めていた一人一人が、「でも、本当はこういう選択肢が欲しかったんだ」ということをストレートに表現しました。そうしたら、その総数はすごいもので、一気に自民党を野党にってしまう力を持っていたわけですね。

小泉政権の誕生も然り。自民党の派閥の力学から言えば、誰もが小泉さんのような人が総裁になることは諦めていました。でも、どうでしょう？その「実は小泉さんみたいな人にやってほしいと思っていたんだ」というのを表現した途端に、大きく流れは変わったのです。枝野幸男という衆議院議員が 3 期連続で当選を続けられたのにも、同じようなことがあると思っています。

枝野幸男さんの日頃の活動は、ボランティアの皆さんに支えられての活動で、お金もなければ地盤も看板もない、業界からの支援もなければ、ないない尽くしの選挙です。今までの常識で諦めてしまっていたら、そもそも彼は、政治活動を断念しなければならなかったでしょう。

しかし、彼は諦めませんでした。自分の想いをストレートに伝え、それに共鳴して下さる方々がいれば、必ずや活動を続けられるというシンプルな信念です。

そして、それに賛同して下さった皆さんも、「地盤・看板・カバンがなくて国会議員になんかなれるはずないよ」と諦めたりはしませんでした。地道に、ピラマキや声かけで、枝野幸男の政策を伝えるお手伝いをして下さり、その積み重ねがあれば、絶対に選挙民の方はわかって下さると信じて汗を流して下さいました。

最初に諦めていたら、変わったでしょうか？

同じように、地盤・看板・カバンの議員さんが当選してきて、選挙区の皆さんは「ああ、やっぱりね。そういう人しか国会議員になんかなれないよ」と思ったに違いありません。

「さいたま市はこういう市になってほしいと思っているのだけれど…」というのがあったら、諦めてしまっただけは、もったいないです。…必ずや、あなたと同じことを考えている人がいるはずですよ。

動けば、変わります。

私は、そう思います。

いや、逆に、動かなくて、変わるのでしょうか？

待っていれば、市は、気づいてくれるのでしょうか？

…とにかく、声をあげよう。そう私が一番に言うのは、それが全ての原点にあると思うからなのです。